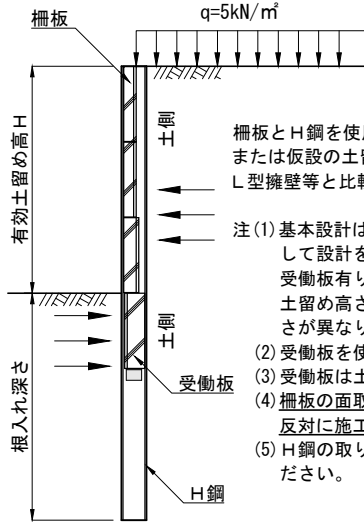
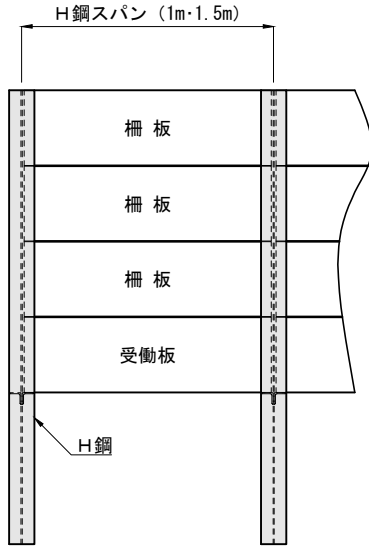


施工例（参考）

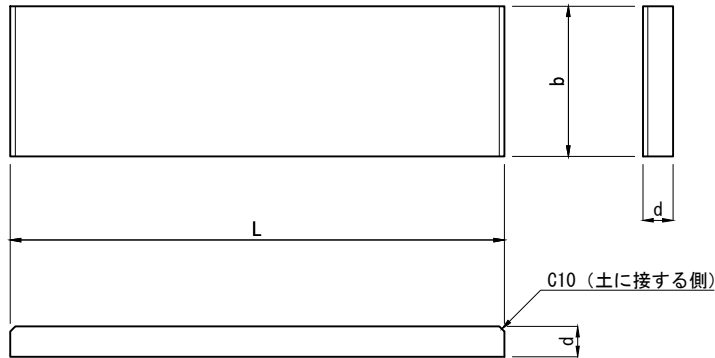
単位：mm



柵板とH鋼を使用して土留め壁高さH=300~900mmくらいの簡易の土留め、または仮設の土留めとする場合に使用します。
L型擁壁等と比較しても施工が簡便で経済的に土留めを構築できます。

- 注(1) 基本設計は背面土がレベルで、上載荷重は群衆荷重 5kN/m^2 程度を考慮して設計をしています。
受働板有りの場合や盛り土の場合も安定構造計算が可能です。
土留め高さや現場の土質等の設計条件によりH鋼のサイズや根入れ深さが異なりますので、あらかじめ担当営業にお問い合わせください。
(2) 受働板を使用することによりH鋼の根入れ深さを浅くすることができます。
(3) 受働板は土側に寄せて、施工してください。
(4) 柵板の面取りがある側が土側、受働板は面取り無し側が土側ですので、反対に施工されないようご注意ください。
(5) H鋼の取り扱いもしております。詳しくは担当営業にお問い合わせください。

■ 柵板・受働板



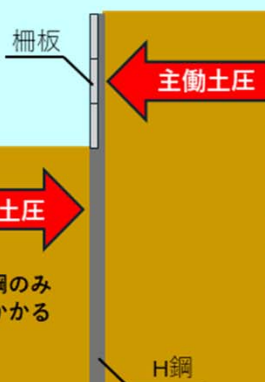
呼び名	寸法 (mm)			参考質量 (kg)	抵抗モーメント M_{ra} (kN·m)	
	L	b	d			
柵板	50	980	298	50	0.3454	
		1480		52		
	60	980		60	0.6600	
		1480		62		
	80	980		80	55	1.0140
		1480			82	
受働板	80	980	80	55	2.9470	
		1480		82		

簡易土留め(柵板・H鋼)

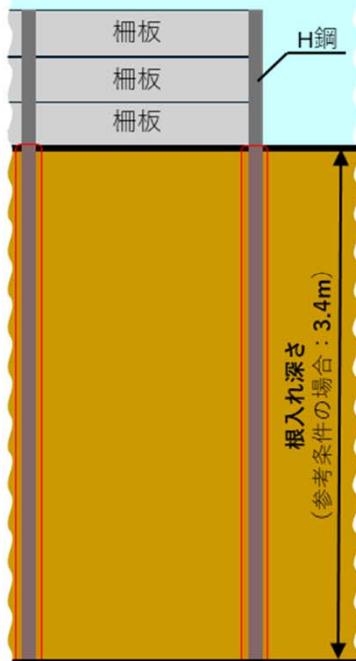
受働板を使うとどうなる？

<柵板3段の場合>

側面図

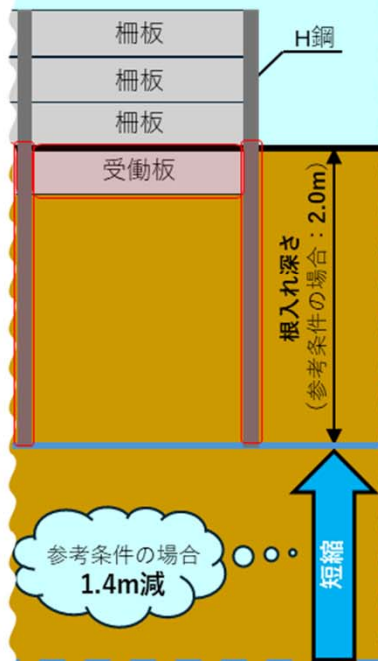


正面図

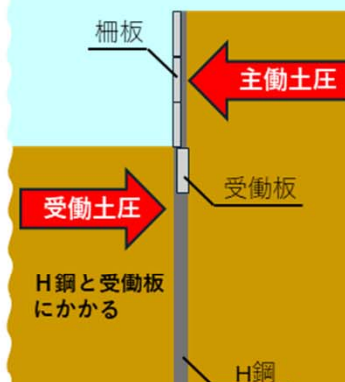


<柵板3段 + 受働板1段の場合>

正面図



側面図



H鋼の幅でしか受働土圧を受けられないから必要な根入れ深さは大きいね

H鋼と受働板で受働土圧を受けられるから必要な根入れ深さを小さくできる！

【参考条件】

区分	レベル
土の単位重量(主動・受働側)(kN/m ³)	19
土の内部摩擦角(主動・受働側)(°)	30
上載荷重(等分布)q(kN/m ²)	5.0
荷重作用位置(m)	0.0
H鋼のサイズ	100×100
H鋼のスパン(m)	1.5

